

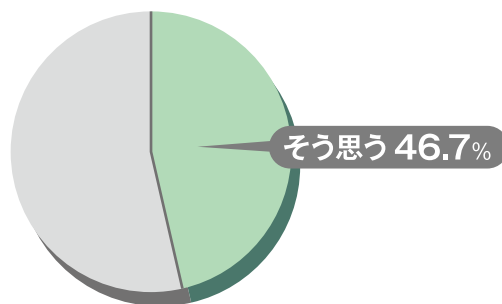
男性の働き方

男の自分が 稼がないと!?



「一家の大黒柱」と言われたとき、思い浮かべるのは女性と男性どちらでしょうか。内閣府の調査※1では、半数近くの人が「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」と考えているという結果が出ています。

男性は仕事をして
家計を支えるべき



※1

男性自身が家計に対して責任を感じていて、周囲からも同じプレッシャーがかかっているのがうかがえます。「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべき」という考えに「そう思わない」と答えた人は75%。「男は稼がない」と思いつつも、家庭も大切だと多くの人が感じているのです。

働く男性の20.8%が週49時間以上の長時間労働をしています。※2

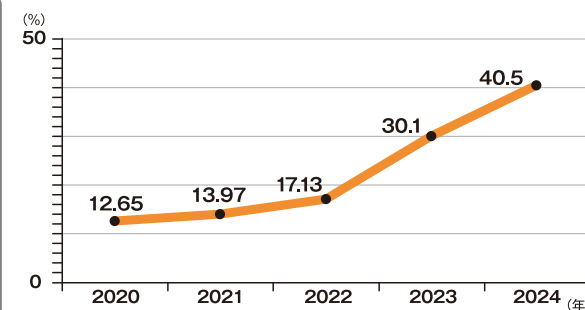
特に30代から40代の子育て世代では、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)が取りにくく、家事や育児をやりようと思っても余力がない男性は多いのではないのでしょうか。

長時間労働は心や身体にマイナスの影響を及ぼします。過労死と認定された人のうち約9割が男性です。※3 また、男性の長時間労働は、女性が全面的に家事や育児を引き受ける形で回っています。そのためにキャリアを中断せざるをえなくなるなど、女性にも大きな負担がかかっています。

女性の育児休業取得率は86.6%です。男性の取得率は近年急増しており、2024年は40.5%でした。しかし、3カ月以上の長期間の育休をとっている人はまだ少なく、女性と比べて取得期間が著しく短いことが課題として挙げられます。※4

男性の育児休業
取得率
(2020~2024年)

※4



性別で仕事と生活の分担を決めるのではなく、互いに責任を分かち合うことができる社会に変えていく必要があります。

出典

※1「令和4年度 性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究」(内閣府男女共同参画局)

※2「2025年 労働力調査(基本集計)」(総務省統計局)

※3「令和6年度 過労死等の労災補償状況」(厚生労働省)

※4「令和6年度 育児休業取得率の調査結果」(厚生労働省)

